

# 国立大学法人兵庫教育大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

兵庫教育大学は、教員の資質能力の向上に対する社会的要請に応えるため、学校教育を中心とした理論的、実践的な教育・研究を進めるとともに、教育諸課題に対応する教員の力量形成を支援し、我が国の教育の発展に寄与することを基本理念としている。第2期中期目標期間においては、実践的指導力を持った教員の養成と、資質・力量を備えた専門職業人たる優れた現職教員の育成とともに、教育実践学の高度な研究・指導能力を持った人材の輩出等を目指している。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、「就学前教育専門職養成の教育課程」の開発、「幼保一体化施設子育て支援モデル」の構築等に向けた取組の実施、「教育行政職幹部職員の能力育成モデルカリキュラム」の研究開発の推進等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### (戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、これからの時代に求められる教員としての資質能力の向上を図るため、大学院カリキュラムの検証・充実や教育内容の改善を行い、教師教育スタンダードを構築することを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成26年度においては、教員養成の高度化に関して、これまでの「教師教育モデルカリキュラム」に係る研究成果をまとめ、「兵庫教育大学教育実践学叢書第2巻」として刊行しているほか、修士課程学生6名に対して、指導教員のアシスタントティーチャーとして教職における職務内容の在り方を幅広く理解できる教育実習等を行う「教職アドバンスプログラム」を適用するなどの取組を行っている。

### (機能強化に向けた取組状況)

今後の修士課程の教職大学院への段階的な移行に関して、現行の教育内容・方法開発専攻3コースを教科教育実践開発専攻5コースに変更し、実践的な授業を大幅に増加したカリキュラムを導入するなどの改革案を策定しているほか、教職大学院において、現職教育関係者を対象とした従来のカリキュラムにこだわらない、受講者のニーズに応じた多様な授業を展開する「教育政策リーダーコース」、「グローバル化推進教育リーダーコース」を平成28年度に開設することを決定している。また、連合学校教育学研究科の組織を見直し、研究科長のリーダーシップを発揮して改革を進めていく体制の充実のため、運営会議の新設、研究主幹の役割の強化等を実施している。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

#### (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 「職員意識改革・業務改善プロジェクト」の実施

事務局に所属する非常勤を含むすべての職員が、改革・改善の意識を持ち、それぞれのポジションにおいて、自己の担当する業務を見直し、業務の改善・合理化に資することを目的として「事務局職員意識改革・業務改善プロジェクト」を実施し、職員の業務削減並びに学生への経済支援に資するためオープンキャンパスにおいて学部生をスタッフとして起用するなどの案が、提案され実施されている。

### ○ 学生のニーズを踏まえた業務運営の見直しの推進

「学生生活実態調査」において、学生のニーズをよりの確に把握するため、設問内容の見直し等を実施するとともに、学生からの意見・要望等を踏まえ、LAN 環境の整備、図書館の開館時間の延長、シャトルバス等の運行を新たに開始するなどの取組を行った結果、大学生生活全般の満足度は 81.0 % と前回の調査時の 75.3 % を上回る結果となっている。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 14 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

- ①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
- ③資産の運用管理の改善

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 外部研究資金獲得に向けた積極的な教員支援

科学研究費補助事業等外部研究資金申請希望者に対する申請書作成支援として補助員・アドバイザースタッフの配置や、研究計画書の作成支援としてテンプレート作成を実施しているほか、複数件数を申請した研究者には研究費を追加配分するなどのインセンティブ方策等を実施した結果、外部研究資金獲得に係る申請目標数 146 件に対し 192 件の申請があり、目標値を上回る結果となっている。

#### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## (3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- ①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

## ○ 学生の研究活動等の社会への積極的な発信

図書館内の教材文化資料館の基幹事業として、平成 26 年度前期には、学生の研究や活動を社会に発信する機会を設けること等を目的とした「第 1 回兵教大自分展－自分（たち）を展示する」、後期には、板書の歴史やチョークの使い方、貼物の工夫など、板書の達人を目指すコツを紹介した「めざせ！板書の達人」の 2 回の企画展を開催し、学外者を含めて約 8,000 名が来場している。

### 【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## （４）その他業務運営に関する重要目標

（①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守）

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

## ○ 情報セキュリティシステムの強化

情報処理センターコンピューターシステムの更新に当たり、より強固なセキュリティシステムを構築するため、既設の無線 LAN システムで設置されたアクセスポイントを一括管理制御できるソフトウェア及びサーバを導入し、学内に分散して設置された無線 LAN アクセスポイントに係るセキュリティ項目等の設定変更等を一括して操作すること等を可能としている。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

## ○ 保護者からの預り金の不適切な経理

附属学校において、保護者からの預り金（学校徴収金）について、不適切な経理が確認されていることについては、その原因究明を行い、再発防止に向けた積極的な取組を行うことが求められる。

### 【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるが、附属学校において預り金の不適切な経理があったこと等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

### ○ 「就学前教育専門職養成」及び「幼保一体化施設子育て支援モデル」開発の推進

「就学前教育専門職養成の教育課程」及び「幼保一体化施設子育て支援モデル」の開発・構築に向けて、附属幼稚園に隣接したやまくにプラザ内に「就学前教育カリキュラム研究開発室」を設置し、幼稚園教諭免許と保育士資格が求められる「保育教諭」に対応する「保育教諭スタンダード」作成のための予備的調査の実施、子育て支援の社会化において、大学が果たす役割について考える「シンポジウム」等を開催している。

### ○ 「教育行政職幹部職員の能力育成モデルカリキュラム」の研究開発の推進

「教育行政職幹部職員の能力育成モデルカリキュラム」について、都道府県教育長や市区町村長に対するインタビュー調査の結果等に基づき、カリキュラムを実現するシステムの構築等を行っているほか、これらの成果を踏まえ、「教育政策トップリーダー養成カリキュラム研究開発室」を設置し、平成 28 年度に教職大学院に開設予定の「教育政策リーダーコース」に係るカリキュラムの研究開発を行っている。

### ○ 学生ボランティアステーションの組織化によるボランティア活動の活性化

学生の自主的な参加を促進するため、学生派遣のボランティアに関する情報提供を一元的に管理・発信するボランティアステーションを組織化した結果、学校関連、不登校関連、災害関連、生涯学習関連等で合計延べ 1,052 名の学生がボランティアに派遣され、特に東日本大震災復興支援に係るボランティアについては、学部生と大学院生（合計 24 名）が参加し、宮城県南三陸町での復興支援活動や岩手県陸前高田市等で震災学習を行っている。

### ○ 附属学校園における安心・安全に向けた取組の実施

附属学校園において、幼児・児童・生徒の安心・安全の確保に向けて、地震対策避難訓練や火災対応避難訓練等を年間 16 回実施しているほか、平成 26 年度から新たに一斉下校指導や、交通安全教室、教員を対象とした心肺蘇生法訓練を実施している。

### ○ 「国際学術学生プログラム」の主催等を通じた学生のグローバル化への意識醸成

新たにハイデルベルグ教育大学（ドイツ）及びルツェルン教育大学（スイス）と大学間交流協定、ロンドン大学（英国）と学術交流協定を締結しているほか、大邱教育大学校（韓国）、屏東大学（台湾）と協力し、“Change and Challenges in Education”をテーマに、「国際学術学生プログラム（DHP program）」を主催（参加者 75 名）し、英語による研究発表や学生間交流を行っている。

### ○ 教員就職状況

平成 26 年 3 月卒業者（教員養成課程）の教員就職状況は卒業者 164 名に対し、正規採用が 80 名、臨時的任用が 36 名で、平成 26 年教員就職率は 70.7 %、進学者等を除くと 87.9 %となっている。